

(27) ニンジン
ア 殺菌剤

農 薬 名	成 分 名	FRAC コード	適 用 病 害 虫 名										注 意 事 項		
			う ど こ 病	菌 核 病	黒 葉 枯 病	軟 腐 病	斑 点 病	し み 腐 病							
アフエットフロアブル	ベンチレト [®]	7			◎										
アリエッティ水和剤	ホセチル	P07			◎										
アミスターオブティフロアブル	アゾキシストロビ [®] ン・TPN	11・M05	◎	◎	◎		◎	◎							
カスミンボルドー 銅 殺菌剤	カスカマイシン・塩基性塩化銅	24・M01			◎	◎									
カンタスドライフロアブル	ホスカリト [®]	7			◎		◎								
クプロシールド	塩基性硫酸銅	M01			◎		◎								
コサイド3000	水酸化第二銅	M01			◎										
シグナムWDG	ビラクトロビ [®] ン・ホスカリト [®]	11・7	◎		◎		◎								
ストロビーフロアブル	クレタキシムメチル	11			◎		◎								
スターナ水和剤	イソプロピルピロリン酸	31					◎								
スミレックス水和剤	プロシト [®] ン	2		◎											
セイビアーフロアブル20	フルジコニル	12		◎											
ダコニール1000	TPN	M05			◎										
トリフミン水和剤	トリフルミゾール	3	◎												
パレード20フロアブル	ピラジフルミト [®]	7			◎										
ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリベンカルブ [®]	11	◎	◎	◎		◎								
フロンサイド水和剤	フルアジナム	29			◎										
ベルコートフロアブル	イミダクシムアルヘ [®] シル酸塩	M07	◎	◎	◎		◎								
ポタニガードES	ポ [®] ヘ [®] リア [®] ・バ [®] シア [®] ナGHA株 分生子			野											野：【野菜類登録】
ポリオキシシンAL水和剤	ポ [®] リ [®] オ [®] キ [®] シ [®] ン複合体	19			◎										
ポリベリン水和剤	イミダクシム酢酸塩・ポ [®] リ [®] オ [®] キ [®] シ [®] ン	M07・19			◎		◎								
マスタピース水和剤	シュート [®] モス [®] ロ [®] テ [®] シア	NC					野								野：【野菜類登録】
ヨネボン水和剤	ノニフェノールスルホン酸銅	M01	◎		◎		◎								
ユニフォーム粒剤	アゾキシストロビ [®] ン・メタラキシルM	11・4							◎						
ロブラール水和剤	イ [®] ロ [®] シ [®] オン	2			◎		◎								
ICボルドー66D	塩基性硫酸銅	M01			◎										
Zボルドー	塩基性硫酸銅	M01			◎		野								野：【野菜類登録】

注) イミダクシム酢酸塩とイミダクシムアルヘ[®]シル酸塩は、成分が「イミダクシム」として取り扱われるので、使用の際は有効成分の総使用回数を超えないように注意する。

(27) ニンジン
イ 殺虫剤

農 薬 名	成 分 名	I R A C コード	適 用 病 害 虫 名										注 意 事 項		
			ア ブ ラ ム シ 類	キ ア ゲ ハ	ネ キ リ ム シ 類	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ヨ ト ウ ム シ	ヒ ヨ ウ タ ン ゾ ウ ム シ 類	ヤ サ イ ゾ ウ ム シ	ネ グ サ レ セ ン チ ュ ウ 類	ネ コ ブ セ ン チ ュ ウ 類				
アクセルフロアブル	メタフルミゾン	22B				◎		◎							
アクセルベイト	メタフルミゾン	22B			◎	◎									
アグロスリン乳剤	シペルメトリン	3A					◎								
アフアーム乳剤	エマクチン安息香酸塩	6				◎									
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン	4A	◎						ト						ト:【トビイロヒョウタンゾウムシへの登録】
エルサン乳剤	PAP	1B	◎			◎	◎								
カスケード乳剤	フルフェノクスロン	15						◎							
ガードベイトA	ペルメトリン	3A			◎										
コテツフロアブル	クロルフェナピル	13		◎				◎	◎						
ゼンターリ顆粒水和剤	BT	11A				野	野								野:【野菜類登録】
ネマキック粒剤	イシアホス	1B									◎	◎			
ネマクリーン粒剤 ビーラム粒剤	フルオピラム										◎	◎			
ネマトリンエース粒剤	ホスチアゼート	1B									◎	◎			
バイデートL粒剤	オキサミル	1A									◎	◎			
フォーース粒剤	テフルトリン	3A			◎										
フェニックス顆粒水和剤	フルベジジアミド	28						◎							
プレオフロアブル	ピリダリル	UN				◎									
マラソン乳剤	マラソン	1B	◎	◎							◎				
モスピランSL液剤	アセタミプリト	4A	◎												
ランネート45DF	メソミル	1A	◎			◎	◎								
ロムダンフロアブル	テブフェルジト	18						◎							

(27) ニンジン
ウ 土壌消毒剤

農 薬 名	成 分 名	RAC コード I:殺虫 F:殺菌	適 用 病 害 虫 名											注 意 事 項
			ケ ラ	ネ キ リ ム シ 類	ハ リ ガ ネ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類	セ ン チ ユ ウ 類	ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ 類	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ 類	萎 凋 病	こ ぶ 病	し み 腐 病	紋 羽 病	
ガ ス タ ー ド 微 粒 剤 バ ス ア ミ ド 微 粒 剤	カゾメット	I:8F							◎	◎		◎		
キ ル パ ー	カーハムナトリウム塩	I:8F							◎			◎		
ク ロ ー ル ピ ク リ ン	クロルピクリン	I:8B	◎	◎	◎		◎				◎	◎	◎	
ク ロ ピ ク 8 0 ド ジ ョ ウ ピ ク リ ン ド ロ ク ロ ー ル	クロルピクリン	I:8B		◎	◎		◎							
ク ロ ル ピ ク リ ン 錠 剤	クロルピクリン	I:8B					◎						◎	
ソ イ リ ー ン	クロルピクリン・D-D	I:8B・8A						◎	◎			◎		
ダ ブ ル ス ト ッ パ ー	クロルピクリン・D-D	I:8B・8A						◎	◎	◎		◎		
テ D C 油 剤 D D	D-D	I:8A			◎		◎	◎						
デ ィ ・ ト ラ ペ ッ ク ス 油 剤	メチルソチオシアネート・D-D	I:8F・8A					◎			◎		◎		

(27) ニンジン
エ 残渣処理剤

農 薬 名	成 分 名	I R A C コード	使用目的	注 意 事 項
キルパー	カーバムトリウム塩	8F	前作のいちごのネグサセンチュウ蔓延防止	使用目的以外での 使用不可
			前作のきゅうりのコジラミ類蔓延防止	
			前作のきゅうりのつる枯病蔓延防止	
			前作のきゅうりのネグサセンチュウ根腐病蔓延防止	
			前作のきゅうりの褐斑病の蔓延防止	
			前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネグサセンチュウ蔓延防止	
			前作のトマトのハサキダニ蔓延防止	
			前作のトマト又はミニトマトのコジラミ類蔓延防止	
			前作のトルコキョウの斑点病蔓延防止	
			前作のなすのフザリウム立枯病の蔓延防止	
			前作のにんにくのイモクセンチュウ蔓延防止	
			前作のねぎの作物残渣に寄生したクロハネキノコ類蔓延防止	
			前作の野菜類又は花き類・観葉植物のフザリウム類蔓延防止	
前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死				

オ 病害虫防除法（ニンジン）

（ア）うどんこ病 *Erysiphe heraclei*

（防除のねらい）

春播きでは5～7月、夏播きでは9～11月に発生する。病原菌は被害部で越冬するようである。

（耕種的防除法）

過度の密植や多肥栽培をしない。

（イ）菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*

（防除のねらい）

茎が根頭部に付着した部分から発病し、茎および根に急速に進展する。茎は熱湯をかけられたように変色し倒れる。根は軟らかくなり、やがて外側に白色綿糸状の菌糸を生じ、後に黒色、ネズミ糞状の菌核を形成する。本菌は、菌核が第一次伝染源となるので、罹病残渣をほ場に残さないように努める。本病は気温が15～20℃で湿度が高い場合に多発する。

本菌は多犯性で、ニンジン以外にキュウリ、スイカ、トマト、レタスなど37科、172種の植物に寄生する。

（耕種的防除法）

- （1）病気に強い品種を選ぶ。
- （2）病株は早めに抜き取り、収穫後の残渣は持ち出す。
- （3）夏季に約1か月間の湛水処理で菌核を腐らせる。

（ウ）黒葉枯病 *Alternaria dauci*

（防除のねらい）

罹病植物の残渣が伝染源と考えられている。20～25℃が発病適温で30℃を超えると停滞する。年により急激に進展することがあるので、防除時期を失しないようにする。

（耕種的防除法）

肥料切れをさせないことと乾燥防止を図る。

（エ）黒斑病 *Alternaria radicina*

（防除のねらい）

第一次伝染源は罹病植物、特に保菌種子が第一次伝染源となり発芽時に立枯れを起こしやすい。病原菌は有傷部から容易に侵入して根、葉、葉柄、花などに発病する。肥培管理の悪いほ場で発生するので健全な生育と健全種子が決め手となる。

（耕種的防除法）

- （1）健全種子を用いる。
- （2）肥料切れをさせない。

（オ）軟腐病 *Erwinia carotovora* subsp. *sarotovora*

（防除のねらい）

ハクサイの項参照

（カ）斑点病 *Cercospora apii*

（防除のねらい）

本菌は主として菌糸塊の形で種子や罹病植物の茎葉に付着して生存し、これに分生子を形成して伝染する。胞子の発芽適温は28℃で主に気孔から侵入し、発生は気温の高い時期で肥料切れおよび過乾燥状態で多発する。

（耕種的防除法）

- （1）肥料切れを避ける。
- （2）極端な乾燥を避ける。

(キ) キアゲハ

(防除のねらい)

大発生することはないが、1頭の幼虫の食害量が多いので、ほ場での発生動向を注視する。

(ク) ネキリムシ類

(防除のねらい)

ハクサイの項参照

(ケ) ヨトウムシ (ヨウトガ)

(防除のねらい)

キャベツの項参照

(コ) ヒョウタンゾウムシ類 (ハイイロサビヒョウタンゾウムシ)

(防除のねらい)

ゴボウの項参照

(サ) ヤサイゾウムシ

(防除のねらい)

多食性であるが、ニンジンを好んで加害する。幼虫の寄生時期は11～3月の冬季である。幼虫は芯部の茎間に生息するので発生初期の防除に努める。

(シ) ネグサレセンチュウ類, ネコブセンチュウ類

(防除のねらい)

サツマイモのセンチュウ類の項参照